

被災地 実情触れて

元ボランティアから議論

岡山経済同友会
友一ラム
同フォー



若い世代が被災地の実情に触れる重要性について意見が交わされた教育フォーラム

月に東日本大震災が発
生10年となったのを踏
まえ、若い世代が被災
地の実情に触れること
の重要性について意見
が交わされた。

同友会が震災が起き
た2011年から5
年間、岩手県大槌町
などで行った学生ボラ
ンティア派遣事業の参
加者ら5人が登壇。市
民ら約90人が聴講し
た。

岡山経済同友会主催
の教育フォーラムが18
日、岡山市北区天神町、
RSK山陽放送の能楽
堂ホール「tenji
n9」であり、今年3
月11、12年に現地を訪
れた炭田優也さん(30)
、広島市は「本当に

何もなく、において人
が住んでいたことがよ
うやく分かった」と当
時の衝撃を振り返り、
現在は小学校教諭とし
て防災教育に力を入れ
ていることを紹介。13
年に参加した佐藤明さ
ん(29)は倉敷市は同
市消防局の消防士とな
って18年の西日本豪雨

で救急救命に当たり、
「状況が急変する災害
の恐ろしさを知ってい
たことで、豪雨では冷
静に対処できた」と説
明した。
派遣事業に携わった
国際医療ボランティア
AMD A理事の難波妙
さん(58)は総社市は、
南海トラフ巨大地

震を念頭に「被災地の
痛みや悲しみに触れた
経験がある人が一人で
も多くなれば、支援の
輪や活動の幅が広が
る。新しい防災減災の
アイデアにもつなが
る」と述べた。
フォーラムは01年に
始まり、21回目。

(南原久人)